

「神の言葉はつながれていない」

2019年04月24日

テモテへの手紙 二 2章8節～13節 イエス・キリストのことを思い起こしなさい。わたしの宣べ伝える福音によれば、この方は、ダビデの子孫で、死者の中から復活されたのです。この福音のためにわたしは苦しみを受け、ついに犯罪人のように鎖につながれています。しかし、神の言葉はつながれていません。だから、わたしは、選ばれた人々のために、あらゆることを耐え忍んでいます。彼らもキリスト・イエスによる救いを永遠の栄光と共に得るためです。次の言葉は真実です。「わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、／キリストと共に生きるようになる。耐え忍ぶなら、／キリストと共に支配するようになる。キリストを否むなら、／キリストもわたしたちを否まれる。わたしたちが誠実でなくても、／キリストは常に真実であられる。キリストは御自身を／否むことができないからである。」

「著者」は、「イエス・キリストのことを思い起こしなさい」と言う。キリスト教信仰はどこまでもイエス・キリストに集中する。「著者」は、まず「イエス・キリストはダビデの子孫で、死者の中から復活された」と書いている。パウロはIコリント書15章20節で、「実際、キリストは死者の中から復活し、眠りについた人たちの初穂となりました」と語り、キリストの復活に福音が啓示されていると力説している。パウロは、この福音宣教のために苦しみを受け、ついに犯罪人のように鎖につながれている。「しかし、神の言葉はつながれていません。」神の言葉は、何ものにも拘束されず、自由に生き、人々を救いへと招いている。だから私は、神に選ばれた人々の救いのために、あらゆることを耐え忍んでいる。選ばれた人々がイエス・キリストによる救いを永遠の栄光と共に得るためである。そして「次の言葉は真実です」と言う。この言葉がテモテ書の定式、慣用語である。

「わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、／キリストと共に生きるようになる。」パウロは、「わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることに成ると信じます(ローマ6:8)」と書いている。キリストの十字架と共に古い罪に死に、キリストの復活に与り、神の命を生きることが救いである。「耐え忍ぶなら、／キリストと共に支配するようになる。」パウロは、「神の恵みと義の賜物とを豊かに受けている人は、一人のイエス・キリストを通して生き、支配するようになるのです(ローマ5:17)」と書いている。福音宣教には苦難が伴うが、イエス・キリストの十字架と復活によって神の恵みと義の賜物を受け、一人の人キリストを通して生き、支配する者となる。「キリストを否むなら、／キリストもわたしたちを否まれる。」主イエスは、「人々の前でわたしを知らないと言う者は、わたしも天の父の前で、その人を知らないと言う(マタイ10:33)」と語っておられる。主イエスを知る者が神に知られているのである。「わたしたちが誠実でなくても、／キリストは常に真実であられる。」パウロは、「人はすべて偽り者であるとしても、神は真実な方であるとすべきです(ローマ3:4)」と書いている。パウロが体験した実感で、全てのキリスト者が立たせられている御言葉である。「キリストは御自身を／否むことができないからである。」民数記23章19節に、「神は人でないから、偽ることはない」と書かれている。パウロは、「この方において『然り』だけが実現したのである(IIコリント1:19b)」と、神の子キリストは「否」ではなく、「然り」を宣言してくださったと述べている。